

ヒメハナワラビ

Botrychium lunaria (L.) Sw.

ハナヤスリ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

局限の生育環境にある。個体数が少ない。(現況:RO)

形態

植物体は、高さ5~15cm。短い根茎から共通の柄が1本出て、中程で栄養葉と孢子葉に分かれる。栄養葉は1回羽状複生で裂片は扇形になり、5~7対つける。葉は無柄か短い柄がある。孢子葉は3回羽状に深裂する。

国内分布

北海道、本州。

県内分布

白山高地区。

生態など

夏緑性の地中植物である。やや好陽地性で地下部は深いところにある。繁殖は孢子による。孢子は7月頃から熟し始め、風で散布する。

生育環境

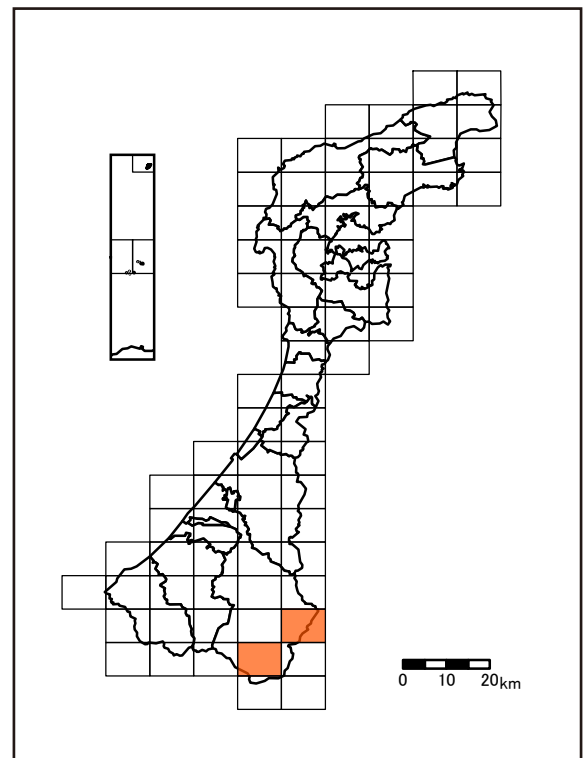
高山帯の高山荒原の裸地に生育する。

危険要因

自然遷移、産地局限。



白井伸和・2009年7月4日・白山



県内の分布